

— 古代の木簡と多賀城 —

2023年11月12日（日）午後1時30分～午後3時15分
東北歴史博物館 3階 講堂（定員280名 聴講無料 要申込み）

多賀城跡出土木簡は令和5年6月に重要文化財に指定されました。指定を記念して、平城京をはじめとした木簡研究に長く携わってこられた奈良大学教授の渡辺晃宏先生に、木簡から明らかになった日本の古代社会や、多賀城から出土した木簡の価値について御講演いただきます。

【講師 渡辺先生プロフィール】

1982年 東京大学文学部国史学科卒業
1984年 東京大学大学院人文科学研究科
国史学専門課程修士課程修了
1989年 同博士課程単位取得退学、
奈良国立文化財研究所に勤務
以後、史料研究室長・都城発
掘調査部副部長・副所長などを
歴任

2020年から奈良大学教授



多賀城跡出土木簡



申込方法

令和5年9月12日（火）9時30分から11月10日（金）15時00分の期間に、宮城県多賀城跡調査研究所のホームページ（下記URL）からお申込みください。右のQRコードからもアクセスできます。

【ホームページ】 <https://www.thm.pref.miyagi.jp/kenkyusyo/>

電子申請で申し込めない場合は、下記までお問い合わせください。

主催 宮城県多賀城跡調査研究所 〒985-0862 宮城県多賀城市高崎1-22-1

TEL 022-368-0102 FAX 022-368-0104

E-mail tagajo_lab@pref.miyagi.lg.jp



れんげもんちゃん

木簡とは

木片に墨で文字が書かれたものを木簡と言います。古代において、木簡は紙と併用して公文書や帳簿、荷札、文字の練習などに使われました。多賀城では、450点出土しています。古代の文献史料は都の平城京や平安京を中心に書かれたものが多く、地方の記録は限られています。多賀城跡の木簡は、陸奥国府の様子を当時そのままの文書で現代に伝える貴重な資料です。



府符
郡司



公文書や帳簿には、国府を守っていた射手や兵士に関する文書、戸籍、帳簿用の個人カード、文字を練習した習書、削り屑などがあります。

読み書きは、役人が出世するためにとても大切でした。同じ文字が何度も書かれた木簡から、書き方を一生懸命に練習していた様子がうかがわれます。

鎮守府の文書を納めた函の蓋 赤外線で解読された文字



白河団進上射
合卍四人守十八人

(手歴名事カ)

和徳三衣

火長神
人味人

射手に関する文書



戸籍

黒万呂姉占マ麻用売
弟万呂母占マ小富
戸主同



大部大麻呂
年廿九左類黒子
陽日郷川合里

(ほか習書)

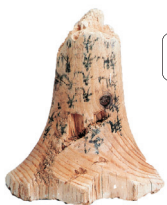
個人カード



木簡は、文字を削って何度も再利用することができました。



削り取られた屑に断片的に残る僅かな記載でも、多賀城の創建年代がわかるような重要なものがあります。



何が書かれて
いるのかな？

習書のある高坏



鉦師四



主典一

神亀元年(724)の征討使を記す削り屑

鉦：進軍の合図に使う鉦 主典：征討使の第4等官

創建時の削り屑だあ！



関連行事① 重要文化財指定記念展示 多賀城跡出土木簡

場所 東北歴史博物館テーマ展示室
開催期間 2023年10月31日(火)～11月30日(木)
開館時間 午前9時30分～午後5時
休館日 毎週月曜日
観覧料 常設展観覧料金でご覧になれます
一般460円(小・中・高校生無料)

関連行事② 多賀城講座

多賀城跡調査研究所の研究者が、それぞれの専門分野の視点から多賀城跡や古代東北地方の様子を一般の方々へ伝え、地域の歴史文化を知っていただく講座です。

場所 東北歴史博物館3階講堂(定員280名 聴講無料 要申込み)
日時 第1回：2023年11月4日(土) 午後1時30分～午後3時45分
①『製鉄技術導入－陸奥南部－』 鈴木貴生
②『多賀城政庁第IV期の軒瓦と新羅系瓦』 矢内雅之
第2回：2023年11月19日(日) 午後1時30分～午後3時
『多賀城の創建』 吉野 武

※詳細は多賀城跡調査研究所ホームページをご覧ください。